

大型物流倉庫受注好調

JFEシビル JFEグループ 優位性を生かす 高い耐震性確保

JFEシビル(藤井善英社長)は大型物流倉庫の受注が好調だ。世界で物流施設を供給する「GLP(グローバル・ロジスティック・プロパティーズ)」の3プロジェクトのほか、大手スポーツメーカーのヨネックスの物流施設として利用される倉庫(事業主「日建紙工」、大手デベロッパーの案件など数多くのプロジェクトを手掛けている。JFEグループの優位性を生かしながら、取引先からの信頼を得ることで、受注を伸ばしていく方針。

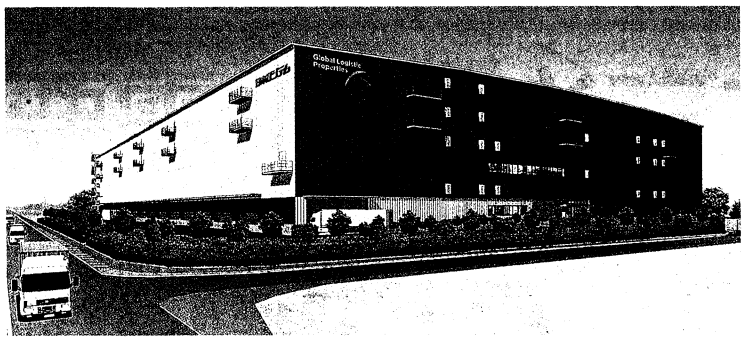
「物流が時代とともに変化する中、しばらくは物流倉庫の建設は続く(藤井社長)。インターネット取引が普及

する中で、翌日配達などのニーズに 대응するため、物流の構造変化が起きている。それに応えるためにも、効率的な物流が不可欠。そのため、大型物流施設の建設が進んでいる。特に関東地域では、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)など道路網の整備が進んでおり、他地域に比べて、その傾向は顕著になっている。

JFEシビルでは、10月に入って「GLP吉見」(埼玉県吉見町)が起工し、「日建紙工(株)東日本物流センター新築工事」が28日に竣工

を迎えるなど、各プロジェクトが進行している。GLPからは「GLP綾瀬」「GLP神戸西」も受注施工中で、実績を積み上げること顧客からの信頼を得ていることも、好調な受注の要因にもなっている。

「GLP吉見」は鉄骨造地上4階建、延べ床面積約6万2000平方メートル、福田組とJVを組んでいる。「日建紙工(株)東日本物流センター新築工事」は鉄骨造地上4階建、延べ床面積7600平方メートル、JFEシビルが企画段階からプロジェクトに加わり、設計・施工を担当した。それぞれの倉庫は、JFEスチールグループの優位性を生かした鉄骨構造を採用することで、高い耐震性を確保。グループのブランド、製品を生かしている。



JFEグループの優位性活かす(写真=GLP吉見)

も、効率的な物流が不可欠。そのため、大型物流施設の建設が進んでいる。特に関東地域では、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)など道路網の整備が進んでおり、他地域に比べて、その傾向は顕著になっている。